

東播2012 ジャズ通信 News Vol.3

2012年7月25日発行 発行：東播ジャズ倶楽部 編集部
編集長：RIKA 編集：大友建・加藤トシロー・北島貴成・奈良雅美
デザイン：大友建 (デザイン事務所：babylon72)

今、「ジャズカバー」がおもしろい。 — 日本人のジャズカバー作品から —

日本では、「流行りの音楽といえば、ジャズ」という時代があったが、今では大衆音楽の1つのジャンルとして定着した。それでも今にジャズ畑以外の歌手が取り上げると、「なんちゃってジャズ」として片付けられることも。

そんな近年の作品群から、「なんちゃって」ではないイチオシの作品を、オリジナル版と比較しつつ東播ジャズ通信編集員の独断的視点で語る。



北原理絵
危険な関係
1983

北原理絵って？にっかつロマンポルノの女優として1980年にデビュー、1986年引退後歌手として活動した。現在は作家北原リエとして活躍。

TR.6のタイトル「うざったいわね」。これはジャズ・メッセンジャーズの「Moanin'」のカバーだ。タイトルから、もう原作無視の匂いがプンプンする。私の思うオリジナルの「Moanin'」は、原題通り神に祈るときに低いつぶやきで、あのモチーフから始まる演奏。一人の静かな祈りから、個々の祈りと想いが重なり、ハーモニーを奏でていく。ちょっと背筋を伸ばして聴きたくなくなる曲なのだ。だが、彼女の書く「ちょっとうざったいわね〜♪」で始まる歌詞は、タバコを暮かせながらベッドに横たわり、やさぐれた女性のイメージ。

オリジナルの世界観は関係ないよといわんばかりの、独創性。経歴をみると色物扱いされそうだが、楽曲は全曲本格的にSwingしている作品になっている。というのも、佐山雅弘 (p) ら、がっつりジャズ畑ミュージシャンがサポートしているのだ！彼女の歌は、本職でない分劣るものもあるが、自分の世界を表現しようとしているし、ブルー〜！良も悪も歌詞の世界観が強いので、歌い手北原理絵より作家としての北原リエの片鱗を感じようとしている。彼女はジャズが好きなのか？(多分好きだと思われる。後の著作のタイトルがジャズ絡みだったりする) それとも時代の流れと事務所の方針がメインなのか？というも気にはなるどころなだけだ...



JUJU
DELICIOUS
2011

「Calling You」はピアノとベースだけのシンプルな伴奏に乗せた、ヴォーカルの情感・質感に全てがかかっている。シンガーにとっては極めて難易度が高い曲である。この作品でJUJU嬢は全般的にホリー・コール版(1991年録音)を参照しているようだ。コールの芯の太い歌声に対し、JUJU嬢は細かいウィスパーヴォイスで挑んでいる。

詞の内容はいわゆる叙景詩で、説明的描写のない抽象感、荒涼感に支配されている。が、一聴しただけで、失われてしまった何かへの深い悔恨と執着が感じられる。「擦れっ枯らし」に老成した人間なれば、理解できない境地。彼女は自らの持ち味を生かして、愛する作品の新たな解釈に果敢に挑んでいる。

本作はコード進行の魔術のような音楽で、冒頭の虚無感、おしりがムズムズする感じが、増5度の音程 augment tone により演出されるもの。「I am calling you...」での、いても立ってもいられないような感覚は、半音下降進行を積み重ねることで生まれる緊張感。半音上昇が「トリスタン進行」なら、こちらはさしずめ「コリング・ユー進行」。また、半音下降の末に変ニ(レのフラット)に解決して間奏に入るときの爽快感もこの曲の聴きどころの一つで、楽器弾きにとっても魅力的な作品である。

コール版はオリジナルアルバムもあるが、ここでは他にもたくさんステキな曲が収録されている。NOW JAZZ シリーズの2000年版をお勧めしたい。堅実だがなかなかイケてる稀有なコンピレーションだ。



上田正樹
Smile
2003

上田正樹といえば、私には「悲しい色やね」の大膽なイメージが一番強い。他にも「あこがれの北新地」とか「俺の借金全部でなんぼや」とか「Come on おぼはん」「ぼちぼち行こか」など大阪弁ばりばりの作品がよささんある。そやから上田正樹の Cry me a river を聴くと「今更、さみしいやつて？一晩中泣き明かした、つて？そやったら涙が川になるまで泣いたらええやん。おれかて、あんたが出て行って涙が川になるまで泣いたんやから」こんな感じに聞こえてくるねん。

オリジナルは、ジュリー・ロンドンのファーストアルバム「Julie is her name」からシングルカットされた作品。ジュリーは女優では成功しなかったが、この Cry me a river の大ヒットで一躍トップシンガーの仲間入りを果たした。ハスキーボイスが特徴的な彼女、この曲をささやくように唱う。むしろちょっと冷静なくらいに聞こえる。だから歌詞の内容とは裏腹に恨み節には聞こえず、「大丈夫ですか、お嬢さん」と声をかけたくなくらいである。他方、上田も独り言のように言葉を綴る。バックのギターとピアノのこくシンプルな演奏が、唄と掛け合いのように進んでいく。極力、響きも音数も減らされている。大阪こてこて感はないけど、なんとなくこの涙の川に道頓堀が浮かんでくる。「泣いたらあかん、泣いたら」。悲しい色やね」の唄と重なっても聞こえる。そう大丈夫って。



松田聖子
Smile

「スマイル」はチャップリンの作曲。何千人のアーティストが歌い、演奏し、知らない人もいない名曲。松田聖子の「スマイル」はちょっと前の缶コーヒーのCMで流れ、話題になった。松田聖子の歌唱力を根拠から云々する必要はまったくなく、デビューから現在まで、たえず第一線で活躍し、すばらしいキャリアを蓄積してきた。スクランダルもゴシップも血となり肉になったことだろう。彼女が何かするとメディアは黙っていない。上手いなー、とも思わないけど、ゲツ、へたくそ〜！な曲もない。自分自身が彼女にとってカテゴリーでありジャンルなのだ。

この曲はCDで発売されていないが、Youtubeなどで聴くことができる。奇をてらうことなくそつなく歌い上げている。ペテランの味、妙といったところか。ジャズ歌手による作品は冒頭にも記したようにいくらかでもあるが、ここは敬意を表してトニー・ベネット版を選びたい。この作品ではパープラー・ストライサンドと一緒に歌っている。二人が並んで歌ったのか、別録りなのかは聴いただけではわからないけど、パープラーにちょっと小脇をかかえられて歌っているトニーの姿が浮かんでしまう。でも映像で見る限り足もしっかりしているし、とても80代半ばとは思えない。そして晩年のこのデュエットシリーズの2枚のアルバム自体も共演者、音作りともすばらしいものになっている。まさに異途の土産といった趣だ。



森山良子
The Jazz Singer/
Ryoko Moriyama
2003

森山良子は日本のシンガー・ソング・ライターの草分け的存在であり、昭和という時代を常に彩ってきた国民的・実力派ポピュラー歌手の一人だ。「この広い野原いっぱい」「禁じられた恋」(60年代後期)から「今日の日はさようなら」「涙そうそう」「さとうきび畑」... 誰もがこれらの楽曲に深い愛着を感じることだろう。

しかし、彼女の父親が日系2世ジャズ・トランペッター森山久、母親がジャズシンガー浅田陽子であることを知る人はほとんどいない。カレッジ・フォークの世界からいきなりスターダムに押し上げられ、表向きにはジャズ系の楽曲を封印した形になっていたが、2003年「満を持して」という言葉がびつたりのアルバム、その名もずばり「The Jazz Singer Ryoko Moriyama」が世に出された。

「Wonderful」は1920年代にガーシュイン兄弟によって作られたミュージカル用楽曲。多くのジャズシンガーが唱っているが、ここではヘレン・メリルのバージョンを取り上げよう。二人のグループは対称的だが、「ジャズってる」度ではお互い一歩も退かない。

Art Blakey and The Jazz Messengers
MOANIN'
1958



(RIKA)

Holly Cole 他オムニバス
NOW JAZZ BEST millennium
2000



(北島)

Julie London
Julie is her name
1995



(奈良)

Tony Bennett
Duets - An American Classic
2006



(加藤)

Helen Merrill and Clifford Brown
helen merrill
1995



(しろくま)

MY JAZZ 東播ジャズ倶楽部会員が選ぶ！私が好きな、オススメの「ジャズ」



Keith Jarrett
THE KÖLN CONCERT
1975

ともいえる作品です。偶にピアノに向かってみる閉じながらキースばりに弾くと結構本人は近い感じを出していると思ってるのですが、子供からは単なる無茶苦茶と言われます。(がっつり)

(福岡)



Chet Baker
CHET BAKER SINGS
1956

も失敗してきたのに懲りずにまたすぐに恋に落ちてしまうなんて歌詞をあの手で歌うのもたまらない。な1日の終りにビール片手に駄目な男が聴く、いい意味で駄目な男の歌うラヴソング。

(中本)



安斎祖貴子
魂/kon
2006

初めて彼の歌声を聴いた時は甘味すぎて正直、好きになれなかった。でもその後、私的に心身共に疲れた頃に再度この曲を聴いた時、彼のナイーブな気持ち、ほのかな哀愁に共感してしまい、以来いつもそばにおいてある愛聴盤。今まで何度

(藤本)



Nat King Cole
L-O-V-E
1965

度でも口遊んでしまう。音楽好きであるなしに関わらず、多くの人から愛される理由はそこにある。私はそう考えます。ジャズを知ると知らない人、そんな垣根のない、誰もが愛せる一枚です。

(三ツ村)



MALTA
Manhattan in Blue
2003

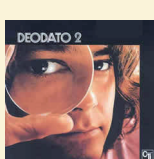
日本中に数多くのサクソプレーヤーがいるが、ジャズ・フュージョンにおいて、世界に通用する人物と云えればマルタではないかな...?と思います。このアルバム「マンハッタン インブルー」が特に気に入ってます。深夜のニューヨーク、外は雨。一人の男が路地裏を歩いているような、少し哀愁を感じさせるような曲です。(ワシはニューヨークには一回も行った事はないけどな)

(松崎)

私とジャズ 「二足のわらじ」 岸本孝一

「私とジャズ」の執筆依頼...その話を受けた瞬間、「この行為こそ、ジャズだよなあ」と、依頼者の冒険心を感じ、また受けた僕自身に対しても思った(笑)。この事は後々の話として置いておく。僕は加古川市在住、米農家をしながら「紅茶と英国菓子の店 CHATSWORTH」というお店を経営している。「一所懸命」に「二足のわらじを履く」欲張りな人生を歩んでいる。

専業農家の長男として生まれた僕は、家長制の色濃い家庭に育った。高校を卒業して将来が現実味を帯びてきた時、僕は加古川を逃げ出す。大学進学を突然やめ、「10年くらいしたら戻ってくる」と約束して東京へ。専門学校を出て、音響設備の会社に就職したが、2年目のある日母が病気でなくなり、自分の判断で加古川に戻った。これを契機に、「加古川に住んで、自分のしたい事と折り合いをどう付けるか？」という葛藤の日々が始まった。僕の家には、壊れた音響機以外はAMラジオとテレビしかなかったが、小学生の時に、いとこの家で初めてステレオから流れるポール・モーリアやカーペンターズを聴いて音の美しさに目覚め、後に「英語の勉強」と称してラジオを聞いてもらった。サンプルテープにはグレンミラーの「茶色の小瓶」が。多感な中学時代にはエレキギターに興味を持ち、ギター欲しさにアルバイトにも精を出した。やがて「Guitar Magazine」や「Jazz Life」を買って、洗練されたクールで個性豊かな音楽表現に関心を持つようになった。



「フォーク村」と称した公民館活動に通い、「88 ROCK DAY!」でブルースやソウル系の熱い音楽の洗礼を受けた。大阪の紅茶修業時代においても、近くのライブハウス「ブルーノート」へよく通った。東京生活ではステレオプレーヤーを購入し、いわゆる「ジャケ買い」の楽しみを知った。アメリカン・ロック、AORにラテン系、国内では細野晴臣さんやニューミュージック、選んではビリー・ホリデイ、キャンノン・ボール・アダレイ、マル・ウォルドロン、セロニアス・モンク、ティン・パン・アレー、カルテット、ジム・ホール、テオダートなど、心の向くまま縦横無尽に、浅く広くレコードを買って漁った。

自分の店を持ち19年目50才。縁あって現在、シンガーソングライターなどの新たな好きなミュージシャンが私の店で演奏するようになった。「歌は世に連れ、世は歌に連れ」。その時その人にとって良い音楽は、時代と共に寄り添って強く記憶に残る。「言葉が心を越えられないのは、言葉より心があるから」「言葉だけでは伝えきれなくてメロディにのせるんだな」と歌うミュージシャン。「現実」と「自分のあり方」に誰しも葛藤があるが、その隙間を埋める努力ばかりでは疲れてしまう。「隙間こそ個性」で、「ギャップを受け入れ、楽しむ力が音楽にはあって、これがジャズ」そのものだなあと思う。かつて僕にとって農業が現実で、店は自我であるように思うところがあって、一見この大きなギャップは、僕の振り幅の大きさと最近受け入れられる様になってきた。ギャップを単に埋めてしまうと人生も音楽も面白くなくなってしまふ。ギャップを楽しもうそれが僕の JAZZ !

世界のワインと洋酒
WINE & GIFT
TEL:079-427-4446 FAX:079-427-4480
http://www.2.117.ne.jp/~winser/

Do you want the live performance of jazz?
Birds with lovely scarlet of Scarlett. KAKOGAWA
スカーレットの小鳥

IROHA SHOKUJIN
高砂いろは食品
TEL:076-0063
兵庫県高砂市高砂町次郎町 1578
TEL:079-443-0168

PUB & RESTAURANT
333番
SHARBOUR
会報持参の方はお会計時 5% OFF
パブ&レストラン サン・は一ぱー
兵庫県高砂市高砂町細工町 1358 TEL:079-443-0007

●特別対談：「播磨のジャズな人」

JAZZ×TALKIN'

ゲスト：ベーシスト 藤井邦彦さん

聞き手：大友、RIKA
 写真：奈良
 場所：5月16日(水)姫路George Adams
 人と人の数珠つなぎが、自分自身の音楽を育てる糧になる。
 音楽は人と人の繋がり。今回は、播州を中心に関西で活躍するベーシスト藤井邦彦さんにお話を伺いました。

●音楽との出会い。

RIKA 今日はお時間割いていただいてありがとうございます。
 大友 藤井さんは、現在播州・関西を中心にベーシストとして活動しているらしいですが、元々の音楽との出会い。いや、ベースを始めたきっかけはなんだったんでしょうか？
 藤井 音楽を始めたきっかけというか、楽器を触ったのはギターが最初だったんです。
 大友 中学生くらいの時？
 藤井 はい。運動場の石拾いをしてる時に、友達とふざけてて転んだ拍子に手を骨折してしまって、医師からリハビリにギターをさせてはどうですか？と言われて始めました。家は音楽をやる環境ではなかったと思うんですが、リハビリという大義名分があったので、親もすんなりギターを買ってくれて、一人でコツコツ始めました。
 大友 音楽的にはどういったものを？
 藤井 最初はフォークギターでした。特にフォークソングが好きというわけでもなかったんですが、虫のようにコツコツ弾き続けていました。



大友 ちなみに一番最初に買ったレコードは？
 藤井 井上陽水の「氷の世界」です(笑)。時代でしょ。その後、学校のバンドやっている人に仲間に入れてもらったんですが、ギターやっている人は既にして、僕より遥かにうまかったんです。どうしたらいいんだろ...となって、ベースがいなかったんで、じゃあベースやりますよ。まあ、押し出された感じですね。
 大友 ベースマンの王道ですね。
 藤井 でしょ(笑)。その頃はティンパニールとかのヘビーなのを言われるままにやってきました。でも、今思うとあまり好きじゃなかったのかも。それから時代的クロスオーバーとかフュージョンが流行ったので、自然に移行していきました。そっちの方が自分的にフィットしたと思います。
 RIKKA ジャズに移行したのはいつ頃ですか？
 藤井 社会人になってからでしょうかね。

●ジャズとの出会い。楽器のこと。

大友 フォーク・ロック・フュージョンときて、ジャズに入るのは自然な流れでした？
 藤井 自然でしたね。
 大友 抵抗もなかった？ ジャズを好きだったんですか？
 藤井 うーん。わからない。今も何がジャズかわからなかったりするんですが、当時もやることに対する抵抗はなかったです。音楽の種類で抵抗とかは全然ないですね。オールジャンル全てが音楽だから。僕は音楽が好きなんです。でも、ジャズを始めるかどうかという時に、音楽的についていけないって辛かったことはあります。
 RIKKA いわゆる挫折というやつですか？
 藤井 ですかね。ジャズとフュージョンの間くらいの音楽をやっていた頃ですが、全然理論もわからずに弾いていて、上手なバンドに誘ってもらって参加していたんです。それが、僕のジャズの始まりなんです。その人たちに僕は引っ張りあげてもらえただけで、ついていけない自分がいて。ジャズに入りきれないところで、のたうちまわっていたんです。ホントは辞めた方がよかったのかもしれないけど、辞めるって言いたくないし、辞められない。もがきながらやりましたが、当時は辛かった(苦笑)。
 大友 でも、周りが辞めろって言わなかったんですよね。それは藤井さんの可能性をわかっていたんでは？

藤井 うーん。どうだろ？ 僕はついてるといふか、人間的にラッキーだったんです。引っ張りあげてくれる人が要所要所に沢山いてくれたんです。だから、今まで音楽を辞めずにずっとこれでした。
 RIKKA ジャズに入られたときは、もうウッドを持たれてたんですか？
 藤井 ウッドを持ったのは2、4、5の時ですね。それまではエレベータでした。
 大友 持ち替えたときは独学ですか？
 藤井 いいえ、習いに行きました！ 姫路の石橋敬一さんに！ エレベを何十年弾いてきていても「君は何を弾いてきたのかね？」「今まで何をやってきたんだい？」とそんなところからのスタートでした。「すみませーん」みたいな(苦笑)
 大友 エレベからとウッドからと入るところが違うとアプローチが縦から横からかみたいで、全然違いますもんね。
 藤井 特にウッドでジャズとなると、勿論理論があって、今までルートとか単純なコード進行でやってきたのと比べ物にならないほど高度で。結構時間がかかりました。
 RIKKA 今はどちらの方が好きですか？
 藤井 今はウッドですね。どっちも好きですけど、ニーズもあるし、ウッド。
 大友 藤井さんは何本くらいベースをお持ちなんですか？
 藤井 楽器そんな何本も持ってないんです。エレベは最初がリッケンバックで、そのあと2本くらいを経てたどり着いたのがフォエダ。その後オリジナルのモデルを作ってからは新しく作ってませんし、ウッドも入門器のあと、チェコ製オールドの楽器とメインが故障した時用のサブのジェイハイドの計2本。
 現状、手元にある楽器はエレベのサブ用とメイン用、ウッドのサブ用とメイン用の合計4本だけです。
 大友 持ち替えるとき、いいのに飛んでますね～
 藤井 最初はね、楽器に拘りはなかったんです。拘ったのは、20代後半から30代くらい。レコーディングの機会があって、自分の音を聴いたときに、思っている音じゃなくて、これどうしましょ？？と。自分の思う音を出すにはどうしたらいいんだろ？と考えた末、単純な発想で自分の思う一番いい楽器を買おうと思ったんです。これで、思う音がなかったら、自分が下手だからだ！と。
 大友 なるほど。それで、フォエダに飛んだ訳ですか？
 藤井 はい(笑)。でも、楽器好きじゃなくて、いい音を出すために努力はしますよ、最終的にどうしたらいいの、アプローチしています。

●ツアーサポートを始めたきっかけ。ベースでのアプローチ。

RIKA 藤井さんといえば、播州にツアーで来られるアーティストのサポートを沢山されているイメージなのですが、ツアーサポートはいつ頃から始められたんでしょうか？
 藤井 最初はNYのピアニスト平木がよさんからです。6年くらい前でしょうか。知り合いのドラマーに誘ってもらったんです。そのときに気に入ってもらえて、他の場所でも一緒にやりましょうと言って頂けたので、平木さんと何箇所か一緒にやりました。その中で、僕の演奏を聴いて「こっちもおいでよ」と誘ってくださったのが、ピアニストの金谷こうすけさんでした。そして、その方が一緒に演奏していたのが、ギタリストの杉本篤彦さんや、ドラマーの堀越彰さん、バイオリニストの渡辺剛さん、YU-MAさん、サクスの荒崎英一郎さん等、第一線で活躍している人達。平木さんがきっかけで、次々と依頼を頂けるようになりました。あと、最近ではピアニストのあかぎしほさん繋がりや、NYで活動されていたサクスのミキトシヒコさんやドラマーの安井鉄太郎さん、平山サンペイ恵勇さん達との共演があり、これもまた素晴らしい出会いとなりました。
 RIKKA 先ほど出てきた要所要所で引っ張りあげてくれる人がいたんですね。まさに数珠つなぎ。
 大友 これらの方はそれぞれ好みが違うんですね。サポートという、主役に合わせていかないとはいけなくて、もちろんベースのアプローチもその人ごとによって変わりますよね。その辺りの折り返しはどうつけられるんでしょうか？
 藤井 僕は、音楽が一番大事なのは約束事だと思っています。特にプロになればなるほど大事で、その音楽を作っていく上において相手が要求してくる。例えば楽曲に対する思い入れとか。テンポから始めて、展開と最終的な部分とか。その約束事をちゃんと履行していくことが役割。勿論それに対して、僕の想いを織り交ぜながらできるのが一番ベストと思うけど、向こうの要求と違うことをするのは、約束ごとと違うと思っても。でも、セッションはパンチの応酬なので違いますよ(笑)。ライブの時はリーダーの思うことをきちんと履行しながら演奏するのが仕事ですね。
 RIKKA 以前に、音数を減らしてもいい音を紡いでいくとおっしゃっていたことがありましたが、それも約束を履行しながら演奏するということから？
 藤井 それは、全ての音楽に対して共通だと思っています。そうあるべきだと。僕は、音楽はダイナミクスとかスピード感やハーモニーが大事だと思っています。それを作り出すには、引き立たせたい部分を強調する。その為に、弾かない音のない部分を作っておける。弾かないことで音楽を作っていくのが理想です。それを一番作り出せるのがベースだと思います。無音からスタートと始まるそのスピード感とかそういうのを大事にしたいですね。
 大友 そういうお考えになったのはいつ頃からでしょうか？
 藤井 最近かな？ 俺のベースを聴いて動揺していた時期もありましたね。未だにそういうプレーヤーが沢山いてはるんだけど、ホント一よりがりで。ベースでも時々同じ酔うようなフレーズ聴かされて、弾いてる方は気持ちいいんだけど、聴いてる方は何これ？ってきくと感じると思う。
 大友 アドリブしているときなんかは何を考えて弾いてらっしゃいます？

藤井 展開ですかね。オチは決まってるので、与えられた中で取めるのが未だに非常に難しい！！先日、バイオリニストの渡辺剛さんと一緒にさせていただいたのですが、フレーズの作り方とか表現力がずば抜けてて、すごく勉強になりました。上手い人って、ほんの短い小節の中でもきちんと表現できるんですね。
 RIKA 沢山の方と共演していらっしゃるんですが、ジャズのミュージシャンのリハーサルってすごく短いイメージが私にはあるのですが、それ全然違いますか？
 藤井 人によって全く違いますよ。どこにこだわっているのかが違うので、進め方が違う。通常スタンダードをされる方はあまり細かいことを言う人はいらっしゃいませんが、オリジナルやコンテポラリーをされる方は細かいです。ちゃんと譜面通りに事細かに指導される方もいらっしゃいますが、平木さんはいかに楽曲をグルーブさせるかということ、ジャズでいうところのスイングさせるかということに神経を使ってるらしいです。



大友 その中でどんなことを体得されました？
 藤井 自分では、わかんないです(笑)。やって、気持ちいいとかは勿論わかりますが、今のスイングしてたとかはわからなかつたりします。帰って演奏を聴きなおしてみても、結構いいとか、勿論、逆もありますけど。自分が気持ちいい演奏がいい演奏とイコールではないのかも知れません。
 RIKA 要所要所で人との繋がりがあった藤井さんですが、最近の数珠つなぎはありますか？
 藤井 あります！(笑) 僕が最初に買ったLPの「氷の世界」なんです。井上陽水さんのバックでその頃からキーボディアの深町純さんなんです。僕がフュージョン聴きだした頃に、深町さんのニューオーク・オール・スターズってバンドがあって、それが大好きで、ずーっと聴いてたんです。最近一緒にやってくれる人が、深町さんと一緒に一緒にいたり、時代的に僕がテレビやレコードで聴いていた人たちと一緒に演奏させていただく機会ができて、自分でも半分信じられないくらいです。
 RIKA すごい！数珠繋ぎというかわかりませんが...
 藤井 そうかも。人と人の繋がりがって不思議なもんなんです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

●これからのこと。

RIKA 今日は色々とお話を伺いましたが、藤井さんがこれからの夢ってなんですか？
 藤井 沢山いいミュージシャンを呼びたいし、大阪や名古屋・東京・NYで演奏するメンバーと播州でやりたいです。いいミュージシャンと、ここでやって「こんな音楽ですよ！！」っていうのを聴いてもらいたいです。僕は前まで全然そういうのがなくて、大阪方面にばかり出かけていて、姫路で演奏する機会が殆どありませんでした。ご縁があって、地元姫路のジョージ・アダムスという素晴らしいジャズクラブで毎週水曜日のジャムセッションで定期演奏の機会を頂いています。だったら姫路で！音楽っていうものが、もっとここで盛り上がった方がいいなと考えています。勿論他の地域でも演奏はするんだけど、もっともっと姫路でも演奏したい。それで、姫路の音楽シーンがあがるかという、まだまだそうじゃないんだけど、すこしでも、そういうのに寄与できたらいいなと思います。
 大友 沢山の方とされているからこそ、姫路でできることがありますよね。
 藤井 播州の人たちは音楽を楽しむことも、レスポンスもほんとにいい！それが、ライブハウスの演奏でも還元されるようになってくれたら一番いいですね。
 RIKA 地域の音楽シーンの向上への寄与という、大きな夢をお持ちなんですかね。東播ジャズ倶楽部でも、何かお手伝いできることがあれば是非させていただきますね。本日は本当に長い時間、貴重なお話ありがとうございました。
 藤井 こちらこそありがとうございました。

深町純トリビュートライブ in KOBE
 2012年11月24日(土) 神戸CHICKEN GEORGEにて開催予定。
 藤井さんが出演されます。乞ご期待！

NEWS ★ 設立4年目に突入！東播ジャズ倶楽部会員募集！
 毎月集まるジャズの幅を広げる定例会や手作りライブの開催。地域の音楽祭にも参加中！楽器弾き。歌唄い。聴く専門。色んな人がいる東播ジャズ倶楽部。ジャズが好きな方ならどうぞ。ホームページから入会申し込みできます。

● 前回配布先一覧
 コーヒーハウス Because、紅茶と英国菓子の店 CHATSWORTH、アラバスクホール、Lスクール加古川、スカレットの鳥、ぎやらり〜&サロン日本堂、ブックカフェざれど、Salut、高砂いるは食品、パブ&レストラン サン・はーばー、PINKHOUSE、カフェ WEST、JB-S、Ys コーポレーション、タワーレコード姫路、HMV 三宮、やぎ楽器、オクダ楽器、スガナミ楽器 他多数。(敬称略・順不同)

RIKAの補筆後記
 さん号目です！！始動から半年以上かかってんー！！と唸って押出した特集記事やごり押しして書いて頂いた記事など盛り沢山です。うろろうよちよししながらのローベスな通信ですが、めげずに続けていこうと思います。
 これからも、東播ジャズ通信の応援よろしくお願いします m(_ _)m

● 広告、配布に関するお問い合わせは、東播ジャズ倶楽部事務局まで。
<http://t-jazz.com/> E-Mail info@t-jazz.com
 ● 地域のライブ情報は毎月こちらで配信中
<http://diary.t-jazz.com/>

加古川でジャズ聴きながら
 読書とカフェを堪能できるのはここ！
 salut
 Book Cafe ざれど・Salut
 兵庫県加古川市加古川町木村227
 tel: 079-440-1024
 open 11:00 close 20:00
 お休み～第1・第3日曜、毎週月曜
 saredo

神鋼不動産(株)加古川支店は、
 東播ジャズ倶楽部を応援しています。
 2012年9月8日(土)
 深町純トリビュートライブ in KOBE
 2012年11月24日(土) 神戸CHICKEN GEORGEにて開催予定。
 藤井さんが出演されます。乞ご期待！

日本酒は尉姥
 小南酒店
 〒675-0031
 兵庫県兵庫県高砂市高砂町次郎助町1623
 tel/fax 079-442-0071
<http://ameblo.jp/kennyanzuzo-entry-10842850233.html>

小山舞海 陶屋
 8月18日(土)～8月26日(日) 20日(月) 休廊
 11:00～18:00(最終日～16:00)
 gallery Y's one
 〒675-0031
 兵庫県加古川市加古川町北在家728-3
 tel/fax 079-424-7766
<http://ameblo.jp/ys-one/>
 「沼田佳苗展」
 9月11日(火)～9月23日(日) 17日(月) 休廊
 11:00～18:00(最終日～16:00)
 ※まちどミュージアム参加(東北復興支援金として、東北の作家沼田佳苗を迎え、売上の一部は東日本大震災に寄付いたします)

★ Mature Special Event
 ジャズライブを楽しむがための
 80人規模の婚活パーティー開催！！
 2012年9月8日(土)
 予約 ¥6,000 一般 ¥5,000
 (性別不明・申し込み済みのみ参加可) (会場券別)
 16:30～open 17:00～start
 場所 旧クッゲンハイム邸
 東区区役所
 出演 Blue Moon (ジャズグループ)
 La*Fuente (フランクソウクル)
 お問い合わせ Mire
 tel: 090-8532-9013
<http://www.facebook.com/MatureJazzlive>